

国際金融公社（IFC）がJOI特別会員に入会

国際金融公社（IFC）が5月にJOI特別会員に入会しました。

IFCは、世界銀行グループの一員として1956年に設立され、途上国において民間セクターを対象とした開発支援に取り組む世界最大の国際開発金融機関です。設立以来70年近くにわたり、貧困の削減や繁栄の共有を図るべく、民間による画期的な取り組みの支援を通じて環境や社会に配慮した包摂的かつ持続可能な経済成長の実現や雇用創出に取り組んできました。現在、IFCは世界100カ国以上に現地オフィスを展開し、投融資やエクイティ投資、貿易金融やリスク管理などの多様な金融商品、アドバイザー業務などを通じ、市場やインパクトの大きいプロジェクトの創出や実現、そして民間資金の動員に取り組んでいます。2023年度は世界的な複合的危機に対応するべく、途上国の民間企業と金融機関に対し、過去最高となる437億ドルの投融資（民間資金動員額も含む）を承認しました。

近年、気候変動対応やパンデミック、食料安全保障などの複合危機の影響により、途上国が開発課題の解決に振り向けられる公的な財源が限られるなか、民間セクター主導による経済発展と民間資本のさらなる活用は必要不可欠となっています。そのなかでIFCが果たす役割の重要性も高まっており、世界銀行グループ内での連携の強化はもちろん、他の開発パートナーとの協働をさらに深化させていきたいと考えています。

米国に次ぐ第2位の出資国である日本は、IFCの使命を果たすうえで重要なパートナーです。IFCの活動は日本政府による出資や信託基金によって資金的に支えられているほか、国際協力銀行（JBIC）などの日本の政府系開発金融機関が、IFCの開発プロジェクトへの協調融資などを通じて日本の民間企業の参画を促進する上で欠かせない開発パートナーとなっています。



左：IFC 東京事務所 横山所長、右：JOI理事長 林

モーリシャスウェビナー開催

5月29日、モーリシャス共和国経済開発総局（EDB）およびJOIは「アフリカ向けビジネスハブとしてモーリシャスを活用するためのウェビナー～具体的なビジネスメリットと事例のご紹介～」を開催しました。いかにビジネスリスクをヘッジしながらアフリカへの進出や投資を進めるべきかという観点から、モーリシャスをアフリカ向けビジネスハブとしてご活用いただくために、具体的なビジネス環境や事例紹介による関係者のプレゼンテーションやクロストークを行いました。

当日の資料は以下のリンクよりご覧いただけます。

<https://www.joi.or.jp/seminar/s240529/>



左：JOI常務理事 一条、右：EDB 日本事務所 清水代表

JOIウェブサイトには、Message from Ambassadors（会員国駐日大使からの寄稿）バックナンバーを掲載しております。是非ご覧ください。

<https://www.joi.or.jp/article/ambassadors/>

お問い合わせは、JOI事業企画部まで

E-mail: bd@joi.or.jp